

2026/2/24

第30回福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会「各町村教育委員会の現状と課題」資料

町村名	浪江町
町村立学校名	浪江町立浪江にじいろこども園 浪江町立なみえ創成小学校、浪江町立なみえ創成中学校
就学園児・ 児童生徒数	こども園68名・小学校61名・中学校26名（令和8年2月1日現在）
現状と課題	
<p>1 新たなふるさと“なみえ”への思いの醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子ども議会」を通して、社会を生き抜く力や具体的な地域の課題解決に主体的に取り組もうとする力を身に付ける主権者教育の推進。探究学習を通して形成された児童生徒の「問い」を「子ども議会」における実質的な質問へと発展させる取組。 <p>(成果) ⇒ ・なみえウォーターの広報企画【中学3年生・住宅水道課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なみえアベンジャーズ（ご当地ヒーロー）の顔出しパネル展示（道の駅）、なみえ公式チャンネル（YouTube）での配信【小学5年生・企画財政課】 ・まちづくりワークショップの実施【中学1・2年生・市街地整備課】 ・なみえまちの水素のある暮らし（水素学習用パンフレット・令和8年度より副読本として活用）の作成【小学6年生（R6）・産業振興課】 <p>2 新しい取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・F-REIとの連携開始（令和8年2月） 放射線基盤技術開発ユニット主任研究員 武田 伸一郎 博士 の協力 小学校プログラミング教育（低学年・中学年・高学年）の実施 ・学校運営協議会（コミュニティスクール）の導入に向けた準備 令和8年度より熟議の開始⇒令和9年度より本格的な稼働 ・スクールAIの導入（令和8年度） 中学校で活用開始⇒英語教育、試験問題作成などで活用 <p>3 授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師主導の「話す」授業から、子どもが主体的に「みる」「きく」「つなぐ」授業へ質的な転換を図る。指導案の見直しも実施（小学校）（令和7年度） ・4つの観「子ども観・学力観・授業観・評価観」を教職員間で共有し、授業改善の方向性を明確にしていく。 <p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児、児童生徒の増加による教室の確保、環境整備 ・保護者との連携（個別の教育支援計画） 	

町村名	葛尾村
町村立学校名	葛尾幼稚園、葛尾小学校、葛尾中学校
就学園児・ 児童生徒数	幼稚園 11 名、小学校 14 名、中学校 6 名
現状と課題	
<p>葛尾村の現状</p> <p>避難指示解除後 9 年 帰村率 30%</p> <p>移住定住促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 移住定住支援センターの設置 アーティスト移住促進事業 空き家空き地バンク お試し住宅 <p>学校の状況</p> <p>他校との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> なみえ創成中、富岡小、山木屋中、都路幼小中 <p>哲学対話の活用</p> <p>グローバル人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語力の向上 海外研修（中学生） <p>地域連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 村民運動会 ふれあい給食試食会 花いっぱい運動 放課後こども教室 	

町村名	双葉町
町村立学校名	ふたば幼稚園、双葉南小学校、双葉北小学校、双葉中学校 (1園、3校)
就学園児・ 児童生徒数	園児：2名、児童16名、生徒13名、計31名
現状と課題	
<p>(現状)</p> <p>双葉町では、旧双葉中学校跡地に令和10年4月「認定こども園・義務教育学校」(施設一体型)を開園・開校する準備を進めています。幼児期から義務教育段階にかけて外国語に親しむ環境を整えつつ、多様な国籍の子どもを受け入れる体制も構築しながら、子どもたちの興味・関心に合わせて、自分のやりたいことに夢中になれる教育活動を展開する予定です。</p> <p>さらには、地域に開かれた図書館等を含む「共創スペース」には、地域住民や双葉町を訪れる大人が集まり、子どもたちと共に学び合える機能をもたせます。災害時には避難所として防災拠点の役割も担い、教育・国際性・地域共生等を融合した新たな学びの場を目指します。</p>  <p>(外観パース)</p> <p>(課題)</p> <p>ふるさと双葉町に認定こども園・義務教育学校を開園・開校する一方で、令和10年3月末いわき市錦町の仮設園舎・校舎を閉じる予定であり、その際多くの児童生徒、保護者は現在住んでいるいわき市内の小・中学校に区域外就学を望んでいます。そのような状況から、今後仮設園舎・校舎に通園・通学する児童生徒の大きな減少を伴うこととなります。また、いわき市から双葉町の認定こども園・義務教育学校までの距離は通園・通学できる距離ではないことから、児童生徒、保護者には苦渋の決断をしていただくこととなります。</p> <p>現段階では、令和9年度より新しい認定こども園・義務教育学校でのカリキュラムを仮設園舎・校舎で展開し、そのカリキュラムに興味・関心を寄せる児童生徒、保護者を広く呼び寄せることも想定しています。</p>	

第30回福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会「各町村教育委員会の現状と課題」資料

町村名	大熊町
町村立学校名	大熊町立学び舎ゆめの森
就学園児・ 児童生徒数	認定こども園 38名 義務教育学校 62名 合計 100名
現状と課題	
<ul style="list-style-type: none">• 帰還者・移住者の定住促進につなげるために、魅力的な教育活動の発信• 新たなコミュニティの創生と地域で学校を支える仕組み作りと社会教育事業の充実• F-REI やイノベ機構と連携し、地域の未来を担う人材を育成するための魅力的な教育活動の持続可能な展開	

町村名	富岡町								
町村立学校名	富岡町立認定こども園（にこにここども園） 富岡町立富岡小学校 富岡町立富岡中学校								
就学園児・ 児童生徒数	園児66名 児童84名 生徒22名（令和8年2月10日時点） 園児66名 児童82名 生徒32名（令和8年4月1日見込）								
現状と課題									
【現 状】									
○ 園児・児童生徒数の推移									
・園児・児童生徒数は、移住・帰還による転入により増加の傾向にある。 （年度途中の転校生：令和6年度14名、令和7年度9名）									
	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8 見込
こども園	10	25	30	48	60	65	63	61	61
小学校	25	25	35	34	35	46	61	77	83
中学校	14	20	15	23	21	21	20	22	32
合 計	49	70	80	105	116	132	144	160	176
（各年5月1日時点・R82月10日時点）									
○ 幼小連携の強化									
・幼小の連携強化に向け、「架け橋プロジェクト」を作成し、園児と児童の交流や教師間の意見交換・情報共有を定期的に行う。									
○ 富岡ならではの教育の推進									
・PinS プロジェクト その道のプロが転校生としてともに学校生活を送る									
・EIP9 9年間を見通して健康増進・体力向上を目指す									
・地域学校協働連携事業 校内地域交流室での活動や地域カフェの開催									
【課 題】									
○ 園児の増加や誰でも通園制度の導入等の保育ニーズに対応するため、保育教諭を確保していかなければならないが、応募人数が少ない。また、講師不足により、小中学校の産休・病休等の休暇に対する補充があてられないなど、指導者不足が課題となっている。									
○ 年度途中の転校生、外国籍の転入生が多く、学校生活の適応に向けての学級経営や個別の支援等、学級担任の負担がこれまで以上に大きくなってきている。									
○ 毎月の地域カフェの開催や学校を応援する会の設置等で保護者や地域のコミュニティの活性化を図っているものの、まだ十分とは言えず、今後も継続していく必要がある。									

町村名	川内村
町村立学校名	川内村立川内小中学園
就学園児・ 児童生徒数	かわうち保育園 園児 27名 川内小中学園 前期課程 49名 後期課程 22名 合計98名
現状と課題	
<p>現状</p> <p>① 川内村人口 2172（2月1日現在） 村内生活者 1828人 内65才以上 961人 高齢化率 52.6%</p> <p>② 義務教育学校5年目 敷地内に幼保連携型保育園「かわうち保育園」併設 ・異学年交流（運動会、集会等）、縦割り活動（委員会）、ランチルームでの合同給食 ・後期課程教員による前期課程への乗り入れ授業実施・・・義務教育のよさを活かす （書写1～3年、算数3,5,6年、社会6年、音楽3～6年、家庭5,6年、体育1～6年）</p> <p>③ 5年生12名「北の大地交流学校」9月24日～27日北海道士別市訪問 6・7年生10名「復興子ども教室」8月7日～10日長崎市訪問 グローバル人材育成「ブリティッシュヒルズ研修」後期課程生徒15名6月28日</p> <p>④ 英語検定 年1回5年生以上、漢字検定 年2回全学年の検定料を補助</p> <p>⑤ 川内小中学園内で「放課後児童クラブ」「放課後子ども教室」を合わせた「放課後こども総合プラン事業」・川内小中学園内で村営の学習塾「興学塾」と「ピアノ教室」を実施</p> <p>⑥ 川内小中学園内で子ども食堂「ミラデザdiningハピもぐ」開始（年5回実施）</p> <p>⑦ 移住・定住促進のため保育園留学開始【過疎地域持続的発展支援交付金活用】</p> <p>⑧ 田村市の保育園で病児・病後児保育施設広域利用事業 開始【かわうち保育園】</p> <p>⑨ 地域文化伝承教室「コミュニティハウスにじいろ」利用者 大幅増加 ※3つの機能 ○地域文化伝承教室 ○コミュニティースペース ○公民館的機能 （R3 1185人 R4 2143人 R5 2388人 R6 3460人 R7 1月末 2692人）</p> <p>⑩ 令和7年度学校給食福島県教育委員会教育長賞受賞（県産食材活用部門） （R5 33.33%、R6 38.93%、R7 62.57%）</p> <p>⑪ 村役場新庁舎建設に伴い村コミュニティセンタが解体されるため教育委員会が2月16日に旧川内中学校に引っ越し（川内村下川内字宮渡 29 TEL0240-38-3805）</p> <p>課題</p> <p>① 児童生徒数の減少→複式学級であるが復興推進加配教員により単式できめ細かな指導（教員3名、養護1名、栄養1名）</p> <p>② 複雑な家庭環境や支援を要する児童生徒の増加→支援員、SC、SSW 今後も継続的な教職員加配措置、SC、SSWの配置</p>	

町村名	檜葉町
町村立学校名	檜葉町立あおぞらこども園 檜葉町立檜葉小学校 檜葉町立檜葉中学校
就学園児・ 児童生徒数	園児数：115 名、児童数 174 名、生徒数 70 名 計 359 名
現状と課題	
<p><町の現状></p> <p>住民基本台帳人口：6,274 人（令和 7 年 12 月末） 昨年比▼137 人 町内居住人口：4,468 人（約 71.2%） ▼9 人 令和 8 年度在籍予定数 園児 100 名 児童 169 名 生徒 78 名 347 名 ▼3 人</p> <ul style="list-style-type: none"> 町の政策の柱として <ul style="list-style-type: none"> 「魅力ある教育」：子どもの「ちから」を伸ばす教育の推進、個に応じた支援 「農業の再生」：6 次化商品の開発と販売促進（さつまいも、ゆず等） 「スポーツの振興」：檜葉町総合運動公園と J ヴィレッジを核としたスポーツ推進と交流人口の拡大 こども園、小学校、中学校 <ul style="list-style-type: none"> 「こども課」：出産前から成人までの子育て世帯への継続観察と支援、情報共有 「幼少中連携」：発達段階に応じた一貫した見通しのある教育の推進 教育関係者懇談会の実施・情報交換 檜葉町がめざす英語教育の基本プランを作成・実践 県立ふたば支援学校との連携「檜葉で共に学び共に生きる教育」 支援体制の構築、生徒の卒業後の進路開拓・地元企業の理解 町立学校・地域住民との交流 「中学校」：JFA アカデミー福島女子（1 年 6、2 年 7、3 年 7 計 20 名） 生活文化や地域理解、将来の目標等で相乗効果 「地域学校協働」 <ul style="list-style-type: none"> 「こども教室」：地域人材と体験活動を重視した放課後(週末)学習 「学校運営協議会」：学校・地域・家庭の 3 者が教育環境の充実を協議 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> こども園園児（0 歳児）の増加 → 保育士、支援員の確保 支援を要する家庭や園児・児童・生徒の増加 → 支援員、加配教員、SC、SSW → 療育機関への接続、保護者理解 企業誘致に伴う外国籍家族の増加 → 生活習慣等の支援、行政区活動への参加 	

町村名	広野町
町村立学校名	広野こども園、広野小学校、広野中学校
就学園児・ 児童生徒数	331名 広野こども園92名、広野小学校124名、広野中学校115名
現状と課題	
<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 居住率 91.6% [町民居住者 4,113 / 住基人口 4,491 人] (2026.1.31) 園児・児童生徒の就学率 こども園 74.2%、小学校 79.0%、中学校 79.3% (含ふたば未来学園中学校では 89%) また、JFA アカデミー福島男子 52 名 (1 年 18, 2 年 18, 3 年 16) 在籍 第三次広野町教育ビジョン (子どもたちがのびのびと育ち未来を切り拓く力を育む教育) の展開 (2025~2029 年度) <ul style="list-style-type: none"> I 確かな学力・豊かな心を育成する学校教育の推進 こども園・小学校・中学校合同の授業研究会の開催、デジタルツールを活用した探究学習やオンライン授業の実践、令和5年度から司書の配置・図書システムを導入後令和7年度末予定で小学校図書数 12,239 冊(学校図書館図書標準以上)・中学校図書数 6,106 冊 (令和8年度に図書標準クリア)、広野町読書推薦文コンクールを開催(令和6年度から小中高生参加(小学生は5・6年生)/令和7年度78作品(内高校生21)) II 地域と学校が協働する学びの推進 広野町地域学習資料の活用と探究活動によるふるさと創造学の充実、地場産物 75.7% を利用した給食の提供と食育の推進、地域と一体となり学校づくりを進めるコミュニティースクールの実践 (令和5年度より) III グローバル教育の推進 こども園、小学校、中学校での ALT の活用、小学校5・6学年と中学校1・2学年でのブリティッシュヒルズ異文化交流体験活動の実施 (令和6年度から連続しての4年間)、中学生と東日本国際大学留学生との交流を図るグローバルデイの実施 IV 学びのセーフティネットの推進 こども園、小・中学校が連携しての特別支援教育の推進、地域支援センター等との連携による特別な支援を要する子どもとその家族に対する指導支援及び就学指導支援体制の充実等 <p>課題</p> <p>広野町教育環境グランドデザイン (令和4年度) に基づく教育環境の整備計画により、新学校共同調理場 R7.12.15 落成・R8.1.7-8 試食・1.9 給食提供、築41年広野小学校大規模改修工事(R6.8~)、築56年広野中学校の複合施設化による建替え計画進行中、小学校及び中学校の教育環境整備事業の2030年度完成を目指す上での財源確保が課題。</p>	